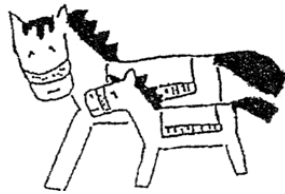


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

26年 5月 NO. 234



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		5月の主な活動		～お気軽にどうぞ～	
5月 2日	金	園にてこどもの日 10:00～11:30	子どもの成長をよろこび、お祝いする行事に どうぞおいでください。		
5月 9日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「春ですよ」をテーマに紙芝居や パネルシアターなどあります。		
5月 17日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って 一緒にあそびましょう。		
5月 17日	土	あなたもマジシャン! 14:00～16:00	奇数月で年6回の手品教室があります。今回は カードを使う手品です。どなたでもどうぞ!		
5月 22日	木	香川みずぶさんの会 14:00～16:00	「過激にして愛敬あり」～宮武外骨の生涯～ を砂古口早苗氏(フリージャーナリスト)に 話していただき、子育てや自分育てについて フリートークしましょう。		
5月 24日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も 子育て体験においで下さい。		
5月 28日	水	健康育児相談 11:00～12:00	小児科園医師にゆっくり相談できます。 (予約要)		

・火～金の13時～16時まで、園内開放しています
ので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みずぶ童謡全集・4
下
空のかあさま

もしもみごとに咲いたなら、
どんなに私もうれしかる。
どんなに私もうれしかる。

一度も赤い花咲かぬ、
つまらなそうな、森の木に
灰のありたけ撒くんだよ。

そんなものへは撒きやしない、
どうせ春には咲くんだよ。
さくら、もくれん、梨、すもも

私にのこった灰おくれ、
私はいいことするんだよ。



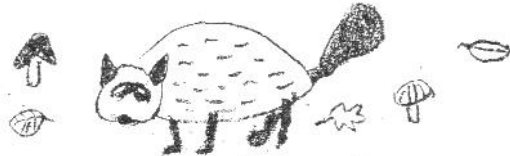
～ドイツ・バイエルン州の幼児教育に学ぶ～

芸工大こども芸術大教頭 齊藤 祥子さん講演より（山形）

自分で考え、行動できる子になってほしい」と願いながらもつい子どもの行動に口を出し、手を貸してしまう。そんな悩みを抱える親は多いのでは。

齊藤さんは昨年、ドイツ・バイエルン州の幼児教育の現場を視察。「子どもの自己決定・自己責任を重んじる」実践に触れることで見えてきた「子育てを楽しむコツ」を参加者らと共有した。講演要旨を紹介する。

◎大人は遠くから見守る



保育園を視察した時、1～2歳の子どもが園庭の遊具で遊んでいたが、保育者と子どもの距離が離れていてびっくりした。日本では、何か危ないことがあればすぐに手を貸せる場所に大人がいる。ところがドイツでは大人は遠くから見守っている。転ぶ子がいれば、棒を持って振り回す子、滑り台の途中で詰まってしまう子もいる。その時、大人はだまって見ているだけ。転んだ子に駆け寄ったり、危ないよと注意したり、滑り台で詰まってる子に手を貸すのは、年上の子どもの役割なのだ。大人の立ち位置によって、子どもは自分たちで解決しようとするのか、それとも大人任せにしてしまうのか、違ってくるのだと実感した

ほかにも保育園では、日本から訪れた私たちが「危なくないの？」と尋ねる場面がいくつもあった。例えば急な石の階段。「転んだらけがしそう。危ないというか苦情が親から来ないのか」と聞くと、ドイツの保育者は「転んだのは子ども自身でしょう。誰かのせいで転んでしまったのならともかく、次に転ばない方法を伝えるのが大人の役割」。

保育室の一角には子ども用のキッチンがある。「オーブンやレンジを使ってやけどをしないの」と聞くと「やけどって、しないと気付かないですよ。おやつ時間、足りなかった子は自由に食べていいという果物とナイフと一緒に用意される。やはり「危なくないの」と聞くと、「使わないと、使い方も覚えな

ですよ。私たちの質問から「日本は本当に危ないことを排除する国なんですよ」と逆にびっくりされてしまった。

ナイフのメリットもデメリットも私は子どもに伝えてこなかったと反省して、自宅に戻ってまずやってみたのは、今まではむいて出していたリンゴを子どもの前でむくようにしたこと。私の手元を「見ているな」という手応えがあったので、切るだけを小学3年の娘にやらせてみた。自信が付いてくると今度はむきたいと言うのでやらせてみたが、いつ止めようかと本当にはらはらした。半年以上がたち、ようやく家族の分までリンゴをむけるようになった。親の方が「経験させよう」と意識することが必要だとドイツで学んだ。



◎おむつ交換 自分で意思表示

「自分で」という方針を象徴するのがおむつ交換台だ。ドイツの交換台には子どもが自分で登るための階段が付いている。日本は親のタイミングで子どもを抱っこして交換台に載せる。だがドイツは、おむつを替えてほしい時には子どもが自分で交換台に登り大人に「替えてください」と意思表示する。歩くようになってもおむつをしている子は多いが、3歳ぐらいになってこの台に登るのは恥ずかしい、早くここに登らないようになりたいという意識が子どもたちに芽生えるという。「恥ずかしいことは隠す」のではなく、「恥ずかしいと思ったら自分はどうしたらいいのかを考える」ことを大人が声を掛けながら実践していけたらいいと思った。

小学生以上を対象にした冒険遊び場も視察した。子どもが主体的に判断して遊ぶことを大切にしている公園。職員が「子どもにはけがをする権利がある」と話していたのが印象的だった。けがや失敗は子どもが自分の力量を知るチャンス。そこから学ぶことがある、と大人が認識することが大事だ。

「哲学する授業」の時間を設けている幼稚園も訪問した。「どうして言葉ってあるんだろう」「もし言葉を話せない地域があったら」「誰が言葉をつくったか」といった答えのない問いを子どもたちが追求する90分。帰国してこども芸大でも実践してみた。こつは子どもが出した答えはどんなものでも受け止めること。「それは違うのでは」と言えば子どもは話せなくなる。「そっかあ、へえ〜」とうなずいていると、どんどん言葉が出てくる。褒めるのでもない。褒めると子どもは「どんなことを言えば評価されるか」と考えて言葉が出なくなる。ど

んな答えも受け止めると、子どもの思考の幅がどんどん広がっていくのが分かる。

ドイツの母親たちとも話をした。常に「自分ができることは何か」と探しているポジティブパワーがすてきだった。それは私たちもすぐできること。相手に求めるだけでなく、家族や友人、周りの人がちょっとでも楽しめるように自分ができることは何かを考えながら進んでいきたい。

山形新聞・朝刊より



親子の絆（愛着）を深める話し方

言うことを聞かない我が子にイライラ。忙しくて子どもにじっくり向き合えない。そんなお母さんが子どもとの絆を深めるため短時間でも取り組むことができるプログラム「CARE（ケア）」が愛媛県内で少しずつ広まっている。

プログラムは2005年アメリカの子ども病院で開発された主に2歳から10歳前後を対象にし、言葉の使い方を替えれば思春期の子どもとのコミュニケーションにも応用できる。

日本では白梅学園大（東京）の福丸由佳教授らが2008年普及のための団体「CARE-JAPAN」を立ち上げた。

問い合わせはメールで

チャイルド・オレンジ・ネットワーク

CAREの活用法

使いたいスキル・3つのP

- ・ 繰り返し（パラフレーズ）
「おうち描いたよ」「ほんとだ。おうちだね」
- ・ 行動を言葉にする（ポイントアウト）
「ミニカーを走らせています」と実況中継のように言葉にする。
- ・ 具体的にほめる（プレイズ）
「電車に静かに乗ってくれてありがとう」

減らしたいスキル・3つのP

- ・ 質問（クエスチョン）
「何で遊びたいの？」
- ・ 命令（コマンド）
「早くしなさい」
- ・ 禁止や否定的な言葉かけ（禁止）
「泣かないで」「あっちへ行って」



愛媛新聞・朝刊より